

揭示文書

課題名「RNA 結合因子 EJC の機能解析と診断マーカー探索」

1. 研究内容

悪性脳腫瘍ではエクソンジャンクソン複合体（EJC）というタンパク質の異常が病態に関係していると考えられます。当研究は、腫瘍中でのこのタンパク質の働きや、その発現が多い方と少ない方で術後の経過や病状の変化に差があるかを調べるものです。

2. 対象

2007年5月から2015年3月の間に金沢大学附属病院で膠芽腫と診断された患者さんのうち、開頭腫瘍摘出術あるいは生検術が行われた方を対象とします。

3. 研究の方法

金沢大学附属病院で患者様から摘出された腫瘍組織から遺伝子およびタンパク質を抽出します。また、病理標本を作成します。これらを用いて EJC の腫瘍中における機能や発現の程度を解析し、患者様の術後経過や病状の変化との関係を調査します。

4. プライバシーの保護について

本研究調査を行うにあたっては、患者氏名や患者番号などを取り除いた情報を使わせて頂きます。このような情報を除いたものであっても金沢大学附属病院脳神経外科の管理者が責任を持って厳重に保管します。集計したデータについては本研究のためのみに使用し、最長5年間保管管理を行った上で廃棄する予定となっています。

この研究調査の対象となる方々については、ご協力いただけるか否かについては自由意思です。情報の使用を希望されない方はお手数ですが、2015年12月31日までに金沢大学附属病院脳神経外科までご連絡いただけますようお願い致します。また、一旦同意なさる意向でご連絡なさっていない場合についても上記期間内であればその時点でデータを取り除いた状態で集計報告を行います。

なお、参加を希望なさらない方について、今後本疾患に関する検査や治療を行う際に不利益となるようなことはありません。